

百条委員会の報告

共同発行人



越川まさふみ



湯浅止子



秋本のり子



増田好秀



長友正徳

「はじめに」百条委員会について

兵庫県議会の野々村竜太郎元議員に端を発した政務活動費の不正事件は、その後全国各地に飛び火し、昨年は富山市議会において13人も議員が辞職する騒動に発展しました。

こうした政務活動費の不正流用は、残念ながら我が市川市議会においても発覚し、平成27年6月定例会において「政務活動費等により切手を大量に購入した議員の調査に関する特別委員会」(以下、「百条委」といふ)が設置され、小泉文人議員らを対象にした調査が行われてきました。

昨年9月定例会においてこの百条委は終結致しましたが、数か月が経過した今日においても市民の方々からのお問い合わせが相次いでおりますので、この度解説を試みることに致しました。限られた紙面ですが、ご読頂ければ幸いです。

青山議員に辞職勧告

小泉議員へは問責決議

政務活動費を巡る問題で、市川市議会は29日、大量購入した切手の使途などを調べるための地方自治法に基づく調査特別委員会(百条委員会)の証人喚問で政務費の不適切な使用を認め、青山博一議員(政和会)に対する議員辞職勧告決議案を全会一致で可決した。調査対象となった小泉文人議員(創生市川第一)に対する問責決議案も全会一致で可決した。議会側が両議員に厳しい姿勢を示す結果となったが、決議にはいづれも強制力はない。

青山議員への辞職勧告決議は、同議員が「アンケート郵送」のために購入した切手の切手を、規則で認められない後援会会報の送付に使っていたことを踏まえ、「虚偽の収支報告等を行った責任を厳しく問われるべき」と指摘。議員辞職が相次いでいる富山市議会を例に挙げ、「かかる事実と同一視されるべき」として議員辞職を求めた。

小泉議員への問責決議は、百条委の調査を踏まえ「(切手の使途とされる市民アンケートを本当に実施したかどうか)小泉議員から合理的な説明がされることも、必要十分な資料が提出されることもなかった」と指摘。「政治家としての資質すら疑わせる言動で、市議会の信頼を失墜させた」とした上で「議員の職を辞するなど、自らの判断で市民が納得する責任の取り方を示す」よう求めた。

決議を受け、青山議員は取材に「反省している。(辞職は)よく考えて対応したい」と話した。小泉議員は「百条委の調査が私の個人攻撃のみを目的としたことを物語っており、到底承服できない」とコメントを出した。

市議会定例会は同日、一般会計補正予算案など22議案を可決し、閉会した。

▲千葉日報 2016年9月30日

議会が全会一致で小泉文人議員に問責決議案、青山博一議員に議員辞職勧告案を決議したことは評価されていますが、決議に強制力がない点に懸念が示されています。

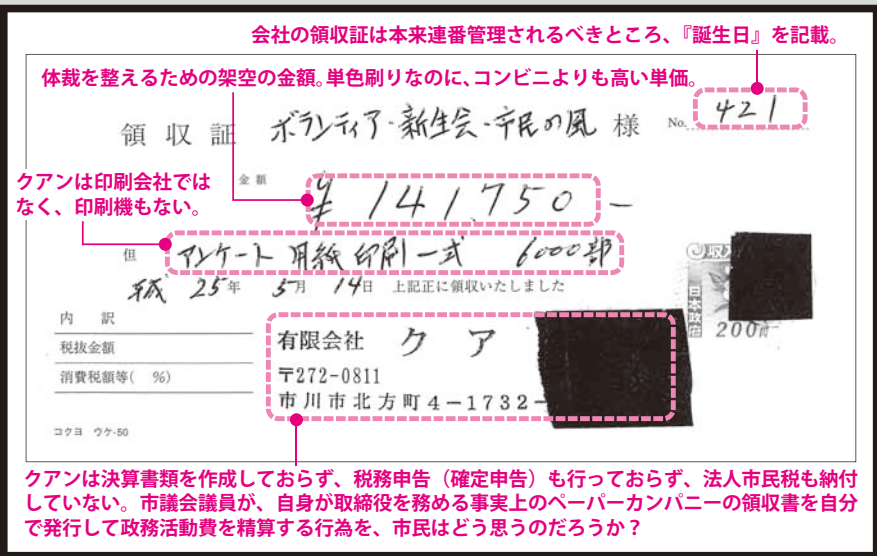
なぜ百条委員会は設置されたのか?

先に述べた野々村竜太郎元議員の事件を受け、ある市民の方が市川市議会における政務活動費の住民監査請求をしたのが発端です。この後の経緯では、小泉文人議員らがアンケート調査名目で繰り返し切手を大量購入していた(総計約4万枚、アンケート印刷代と合わせて400万円超)ものの、アンケート印刷代の領収証発行会社「クアン」は小泉文人議員自身が取締役を務める同族会社であったことや、アンケート報告書が誤字も含めてほぼ丸写しなど不自然な点が数多く明らかになったほか、当時同じ会派に所属していた3人の議員もアンケート回答用はがきは1枚も見ることがない」と疑義を唱えたため、市議会は、小泉文人議員本人を除く全会一致で、百条委を設置して調査を行うことを決めました。

小泉文人議員の主張の変遷

小泉文人議員は当初、「真摯に受け止める。疑義については百条委で説明する」と述べていました。しかしその後には、それまで頑なに拒否していた政務活動費の返納手続きを進めたことを理由に、百条委の中止と調査の終結を求める文書を提出しました。そして実際の百条委では、偽証や証言拒否に罰則が科されるためか、**虚偽の証言をしない旨の宣誓を拒否**したほか、質問に正面から答えずかわす姿勢に終始しました。

また、同族会社「クアン」について、「自らが取締役を務めているにもかかわらず、「売上はあるのか?」といった単純な質問についても同伴した弁護士にたびたび助言を仰ぎ、説明を変遷させる場面も見られたため、疑惑は一層深まりました。



小泉文人議員らが提出した領収証のコピー。(注)黒塗りは議会事務局によるもの。

- アンケート印刷代の領収証発行会社が、小泉文人議員自身が取締役を務める「クアン」だった点につき取材を受けると、小泉文人議員は「印刷はうちの弟がやっていると思う」(平成27年1月17日付「市川よみ取り」と説明しました。
- これを受け、百条委において「印刷は本当にクアンが行ったのか」と問われると、小泉文人議員は「都内の別会社に発注した」などと、従来からの説明を覆しました。
- そこで、クアンの実態について質問が及ぶと、「現在は休眠状態。所得がなく、確定申告はしていない」と証言しました。
- さらに、「では、なぜクアンの架空の領収証が添付されているのか」と問われると、「印刷代が政務活動費の上限を超えたため、クアンの名前で領収書を発行して体裁を整えた」と証言しました。
- なお、「領収証は誰が発行しているのか?」この質問に対しては即答できず、弁護士に助言を仰いだ上で「私です」「領収書の発行番号421は自分が4月21日生まれだから」などと、証言しました。



更に詳細を知りたい方は

<http://www.mushozoku.net/stamp.html>

ご意見お寄せください!!

Eメール: info@mushozoku.net TEL: 047-377-5777
※Eメールは共同発行人全員宛て、住所とTELは越川雅史宛てとなります。 市川市新田4-13-2-103

青山博一議員の証言

2012年6月 今回行ったアンケート調査によって市民意識がどこにあり、またどこに向いているのか? 徐々にではあるが見えてきたと言える。文章??

2012年9月 9か月後も同一の総括文

2013年3月 2か月連続で同一の総括文

2013年4月 2013年6月 半年後も誤字まで同一

2013年12月 同一の誤植

主語は市川市?

報告者 小泉文人

総括 随時行ってきているアンケートも結果。結果を検証して行くと、まだまだ市川市議会が市民に対しての認識度が薄いこと。またわかりにくい運営であることが伺える。さらに議会のみならず、市川市の行政運営自体の満足度も全体的には低調であり、改善の余地がある。今後もアンケート調査を継続し、更なる議会運営ならびに市川市の住民満足度をあげて行くように努めていく。

※○は共同発行人による。

ほぼ丸写しの調査報告書。平成24年度中の4件のアンケートに関しては、3件の総括文は誤字を含めて全く同一の11行、「意見」と題する文章の内容についても、誤字を含めて一言一句同じものとなっている。

を直接裏付ける証人も証拠(実際に返信されたはがきの現物等)も提示されませんでした。

切手を換金したとする疑惑は深まる一方であるにもかかわらず、当事者が積極的に説明責任を果たさず、しなないため、市議会では百条委の調査を続けるよりも、捜査当局の判断に委ねざるを得ないとの意見が大勢を占めるに至りました。

そして、百条委は調査報告書をまとめ、それが議会で承認されたため、すべての調査を終結することとなりました。

議員辞職勧告決議と問責決議

百条委の調査報告を受け市議会は、市議会議員として当然に果たすべき説明責任を果たさなかった小泉文人議員に対しては、「議員辞職を促すなど、自ら責任の取り方を示す」よう求める問責決議案を、また、不正流用の事実を認めながらもその後約一年間自ら責任の取り方を示さなかつた青山博一議員に対しては議員辞職勧告決議案を、いずれも全会一致で可決しました。なお、両議員は議員辞職をしておらず、依然として市議会議員の職に留まったままであり、責任の取り方も示されておられません(平成29年2月末日時点)。

市川市議会の政務活動費問題

深まる切手換金疑惑



市川支局長 篠塚 紀子



信頼回復へ早期解明を

同じ会派に所属していた時期があり、共同でアンケートを実施したとされていた青山氏は「アンケートには関わっておらず、一切知らない」と全面否定。さらに「政務活動費を精算している際、会派代表の小泉氏から『そんな面倒くさいことをする必要はない。切手を買って換金すればいい。みんなやっている』と言われた」と暴露。青山氏は「切手は自分の後援会会報の送付に使った」と説明し、自身の換金については否定したが、疑惑を深める発言として波紋を広げた。

アンケートをめぐる両者の主張が真っ向か対立。鈴木氏の発言が注目されたが、鈴木氏は証人喚問の当日になって「足がつかない」という不可解な理由でキャンセル。百条委が求めた医師の診断書も提出されず、年末越年し、証人喚問は宙に浮いたままになっている。

百条委は、アンケートを印刷したとされる小泉氏と関わりのある都内の会社に、証拠となる書類の提出を求めたが、これも反応がないまま昨年12月25日の期限を過ぎた。

「アンケート実施」を裏付ける証拠は何一つ示されていない。さらに、当事者が積極的に説明責任を果たさず、しなない現状では、「切手を換金した」とする疑惑は深まる一方だ。問題の発端となった住民監査請求からは足かけ3年になる。すでに膨大な時間と費用を費やしており、百条委は明確に納得できる「解答」を市民に示す責任がある。疑惑解明が長引くほど、市議会の信頼回復の道は険しくなる。

百条委員会の終結

1年2か月に渡り調査が実施されましたが、小泉文人議員からはアンケート実施

小泉議員が宣誓拒否

政務活動費をめぐる問題を逸脱している「なぜと理由を述べて、虚偽の証言をしない宣誓を拒否した」と説明。実際の印刷代が政務活動費の支給上限を超えていたことを理由に「クアン」の名前で領収書を発行して体裁を整えたと述べた。これに対し、尋問した委員からは「実体問題ではいつ、どこで、誰の領収書を使うこと自体が大きな問題」との指摘が出た。

小泉氏への尋問は、弁護士の補助人として同席した4時間以上わたって行われた。

「切手を換金すれば」

「アドバイザー」アンケート「知らない」

政務活動費で大量購入した切手の使途などを調べている市川市議会の地方自治法に基づく調査特別委員会(百条委員会)が13日開かれた証人の青山博一議員(自民党)が、使途を隠した市民アンケートについて「知らない」とし、同僚議員から「切手を買って換金すればいい」とのアドバイスがあったことを暴露した。アンケート実施を否定する証言は初めて。

青山議員は当時の所属会派が2012年度に実施したとされるアンケートについて「私は一切知らない。回答はがきや報告書も見たことがない」と述べた。

回答用はがきに使用した切手は換金せず、自身の後援会会報の送付に使ったことを明らかにした。

一部のアンケートの返送先が青山議員の自宅になっていたことについては「自宅に一通も届いたことがない。切手問題の発覚後、議事事務局に提出されたアンケートのサンプルを見て初めて知り、驚いた」と、アンケートの存在すら知らなかったことを強調した。

同様のアンケートで切手を使用したとされる小泉議員と松永鉄兵議員(いずれも創生市川)はすでに証人尋問を終えているが、アンケート自体を実施していないと証言したのは、青山議員が初めて。百条委の調査は、切手が本当に使用されたのか、返信用はがきに切手を貼ったとするアンケートは本当に実施されたのかを焦点とされている。

千葉日報 2015年10月10日

「虚偽の証言をしません」という旨の宣誓を小泉議員は拒否し、

千葉日報 2015年11月14日

小泉議員の当初の報告に「アンケートは青山議員の自宅に返送されるはずだが、青山議員は『自宅に届く届いたことがない』と全面否定。

【むすび】

本件事案については、捜査当局に刑事告発する動きも確認されており、真相解明は捜査機関の判断に委ねられる見通しです。

市川市議会会派「無所属の会」に所属する5名の議員(越川雅史、湯浅止子、秋本のり子、増田好秀、長友正徳)は、捜査機関から要請があれば真相究明へ向けた調査に協力して参ります。

※各新聞記事中の両議員の所属会派名称は当時のもの。小泉文人議員は「創生市川第一」、青山博一議員は「清風会」に所属しております(平成29年2月末日時点)。